2015年8月24日付
中建日報

1級土木（実地試験）対策講習

9月3・4日広島市で開催

CIC

CIC日本建設情報センターは9月3、4日の2日間、広島市中区橋本町のRCC文化センターで「1級土木施工管理技士（実地試験）対策講習会」を開催する。

実地試験は学科試験のような4肢択一式ではなく記述式で、「施工経験記述」問題をはじめ、各設問に対して簡潔で明確な解答を記述するため、同センターの受験準備講習会では、実地試験で最も配点ウエートがおかれる「施工経験記述」の問題をわかりやすく解説し、解答技法の徹底した講義と合格対策のみに的を絞った効率良い独自の講習プログラムによる講義を行う。

講義科目は3日に土工、コンクリート、施工管理法1、建設副産物、問題演習、4日に施工管理法2、問題演習、施工経験記述。講義時間は各日午前10時から午後4時まで（全10時間）。

受講料は2万5500円（施工経験記述の添削指導付）。

申し込み・問い合わせは講習会事務局（電話0120－129－209、E-mail:cic-info@cic-ct.co.jp、http://www.cic-ct.co.jp/）で受け付ける。

を活用した工事件数は471件。25年度と比べると、新技術活用率は7・3ポイント上昇し、過去最大の51・8%となった。全国平均も過去最大となる45・8%だったが、これを大幅に上回る結果を示した。また、活用延べ新技術数をみると、26年度は1861技術を活用。新技術活用工事件数が471件だったことから、新技術を活用した工事では1件あたり約4技術が使われた計算になる。

新技術を「試行申請型」「発注者指定型」「施工者希望型」「フィールド提供型」で構成する活用方式別でみると、「施工者希望型」が95・6%と[…]合を占める。次い[…]ニーズや行政ニー[…]り発注者の指定に[…]新技術を活用する[…]注者指定型」が4・4[…]比率を占め、「試行申[…]及び「フィールド[…]はゼロとなってい[…]施工者希望型」が高[…]示す要因として[…]総合評価方式の技術[…]事成績評定での[…]ったインセンテ[…]効に機能してい[…]考えられる。

設計金額以上の法面植生工やアンカー工、法面保[…]

加する。一方、落石防[…]が1000万円以上の金[…]

中河内地区で新規着工

28年度急傾斜地崩壊対策

―東広島市―

[…]県】東広島市は、28年[…]から急傾斜地崩壊対策[…]として中河内地区で新規に工事着手する。また、27年度で詳細設計を進める郷6地区は29年度からの工事着手を予定する。

27年度の急傾斜地崩壊対策事業（既報）は、高屋町の3地区で対策工事を実施するほか、郷6地区で詳細設計業務に取り組む。

28年度では、27年度着手の鍵谷1地区で工事を継続させるほか、25年度で測量設計を進めた中河内地区（河内町）で新規に工事着手する。事業概要は、吹付法枠工A2620㎡、落石防護柵L171m。このほか、今年度で実施設計を進める郷6地区（高屋町）は29年度からの工事着手に備える。